

2006 東京研究大会

多言語社会研究会 年報

4号

目次

- 1 奄美大島 瀬戸内町における「シマグチ」伝承活動
ひとびとの「言語意識」のてがかり
前田達朗 005

- 2 「明晰な」センサスカテゴリが現れるまで
日本統治初期台湾総督府の「土語」認識
富田哲 030

- 3 ガリシア語復興政策が抱える課題
若者の言語使用と彼らを取り巻く言語環境
柿原武史 057

- 4 スコット語辞書の進展と課題
米山優子 079

- 5 地方議会によるスコットランド語の社会的認知促進の取り組み
2011年国政調査にむけた取り組みの現状と課題
坂本恵 095

- 6 エストニア型多文化主義の理論と実践
第一次社会統合プログラム（2000－2007）の総括を中心に
小森宏美 110

- 7 戦後沖縄における琉球方言研究
仲宗根政善と琉球大学琉球方言研究クラブ
今林直樹 120

執筆者紹介（掲載順）

前田達朗（まえだ・たつろう）

1965年生まれ。

現在、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程在学中。韓国中央大学文学部日本語日本文学科助教授（05-06年）。

主要業績：『在日』の言語意識 — エスニシティと言語』（『在日コリアンの言語相』第3章共著、和泉書院2005年）、「エスニック・コミュニティと個人の『力』 — 洪昌守のトロフィーをめぐる」（『多民族日本のみせかた — 特別展「多みんぞくニホン」をめぐる』国立民族学博物館 2006年）、「『在日』とニューカマーの接触の一事例 — 出稼ぎ労働者と『在日』労働者についての参与観察」（『多言語社会研究会年報1号』多言語社会研究会 2003年）、「奄美大島の言語文化をめぐる伝承活動の報告」（『薩南諸島における「ネオ方言」（中間言語）の実態調査』第3部、共著 平成15-17年度科学研究費補助金研究成果報告書 研究代表者真田信治（大阪大学大学院）2006年）。

冨田哲（とみた・あきら）

1969年生まれ。

淡江大学日本語文学系教員。

主要業績：「1905年臨時台湾戸口調査が語る台湾社会 — 種族・言語・教育を中心に」『日本台湾学会報』第5号、2003年。「日本統治期台湾でのセンサスとかなの読み書き調査」『社会言語学』Ⅲ、2003年。「台湾総督府の『種族』・言語認識 — 日本統治初期の人口センサス・戸口調査・通訳兼掌手当」、崔吉城、原田環編『植民地の朝鮮と台湾 — 歴史・文化人類学的研究』第一書房、2007年。

柿原武史（かきはら・たけし）

1974年生まれ。

博士（言語文化学）。

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了。

現在、福岡大学専任外国語講師。

主要業績：『言語文化教育学の可能性を求めて — 言語文化教育研究論集』（森住衛監修、三省堂、2002年）、「La enseñanza del gallego y la actitud de

los jóvenes hacia el castellano y el gallego] (『Lingüística Hispánica』第28巻、関西スペイン語学研究会、2005年)、「スペインガリシア自治州におけるガリシア語教育政策に関する一考察」(『HISPÁNICA』第50号、日本イスパニヤ学会、2006年)。

米山優子 (よねやま・ゆうこ)

1974年生まれ。

現在、一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程在学中。

主要業績：「W.A. クレイギーと The Dictionary of the Older Scottish Tongue」(『CALEDONIA』第32号、日本カレドニア学会、2004年)、『イギリス現代史1900-2000』(共訳、名古屋大学出版会、2004年)、木村正俊・中尾正史編『スコットランド文化事典』(原書房、2006年)の「スコットランド語/スコット語(Scots language)」に関する項目(歴史、発音、文法、教育、辞書、聖書、マス・メディアなど)を執筆。

坂本恵 (さかもと・めぐみ)

1964年生まれ。

修士(文学)。

中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。

現在、福島大学行政政策学類准教授。

主要業績：「国家編成期の言語変容」(『福島大学行政社会論集』第13巻第4号、2001年)、『『スコットランド語とは何か ～なぜそれが問題なのか』(一)～(三)』原著者J.Derrick McClure、『福島大学行政社会論集』第16巻第2号～第17巻第1号、2003年～2004年)、「スコットランドにおける地域言語復興と地方議会の役割 スコットランド語およびゲール語普及と再生に向けたエジンバラ議会、超党派委員会の取り組み」、(『福島大学生涯学習教育研究センター年報』第9巻、2004年)、「ASEAN(東南アジア諸国連合)域内における『言語権』の認識と言語政策について — EUにおけるマイノリティ言語政策との比較の視点から —」(『福島大学地域創造』第16巻第2号、2005年)、『スコットランド文化事典』(共著、木村正俊・中尾正史編、原書房、2006年)

小森宏美 (こもり・ひろみ)

1969年生まれ。

修士（文学）。

現在、京都大学地域研究統合情報センター助教。

主要業績：『バルト諸国の歴史と現在』（東洋書店、2002年、共著）、『ノルウェーの歴史』（早稲田大学出版部、2005年、翻訳）、「EUの中のロシア語系住民 — エストニア北東部ナルヴァ市の事例から」（『国政政治』第142号、2005年）

今林直樹（いまばやし・なおき）

1962年生まれ。

神戸大学大学院法学研究科後期博士課程満期退学。

現在、宮城学院女子大学国際文化学科教授。

主要業績：「ブルターニュにおけるブルトン語」（宮城学院女子大学『研究論文集』103、2006年）、「Le Royaume de Ryukyu et la relation internationale en Asie」（宮城学院女子大学『沖縄研究ノート』15、2006年）、レイモンド・F・ベッツ、『フランスと脱植民地化』（共訳、晃洋書房、2004年）。

【査読者一覧】

原聖	女子美術大学・芸術学部・教授
藤井久美子	宮崎大学・教育文化学部・准教授
松村一登	東京大学大学院・人文社会系研究科・教授
安田敏朗	一橋大学大学院・言語社会研究科・准教授
山下仁	大阪大学大学院・言語文化研究科・准教授
渡邊日日	東京大学大学院・総合文化研究科・専任講師

【2006 東京研究大会】

多言語社会研究会 年報4号

発行日	2007年8月10日 初版第1刷発行
発行	多言語社会研究会 事務局 連絡先：三元社気付 多言語社会研究会事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル 電話／03-3814-1867 FAX／03-3814-0979 郵便振替／00180-2-119840
印刷・製本	モリモト印刷株式会社